

2014(平成26)年度
鳥取こども学園事業報告書

社会福祉法人 鳥取こども学園

児童養護施設	鳥取こども学園
乳児院	鳥取こども学園乳児部
情緒障害児短期治療施設	鳥取こども学園希望館
児童家庭支援センター	子ども家庭支援センター「希望館」
里親支援機関事業	里親支援とっとり
自立援助ホーム	鳥取フレンド
自立援助ホーム	鳥取スマイル
保育所	鳥取みどり園
地域子育て支援センター	わくわく子育て支援センター
地域若者サポートステーション事業	とっとり若者サポートステーション
地域若者サポートステーション事業	よなご若者サポートステーション
診療所	こころの発達クリニック
障がい福祉サービス事業	はまむら作業所
鳥取養育研究所	鳥取養育研究所

法人の基本理念

社会福祉法人 鳥取こども学園は、
キリスト教精神にもとづいて創立されました。
その根本は『愛』です。

「たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。たとえ、予言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず。真実を喜ぶ。

すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

愛は決して減びない。

.....

それゆえ、信仰と希望と愛、この三つは、いつまでも残る。そのなかで最も大いなるものは、愛である。」

(コリントの信徒への手紙 一 第13章)

私達は、こども一人ひとりのありのままを受容し、こども一人ひとりのかけがえない命をはぐくみ、育てることを使命とする児童養育のプロでありたいと思います。

私達は、こどもを飯のたねにする「福祉屋」にはなりたくありません。このことは、まず私達職員が、自らを見つめ、問いかけながら生き、同時にお互いを一人の人間として認めあうことから始まります。

そして、この努力が、おとなとこどもの双方を育て、みんなが尊ばれる社会に向かわせるものと思います。

私達は、みんなが育ち合うことを理想としています。

巻頭言

希望館開設二十周年生活棟改築事業竣工応援ありがとうございました。

鳥取こども学園希望館 館長 西井 啓二

昨年、鳥取こども学園希望は20周年を迎える事ができました。同じ年にスタートした「生活棟改築事業」が本年、5月末に完成しました。

たくさんの皆さまのお力添えをいただき、この日を迎えることができましたことに厚く感謝を申し上げます。

「失われた機能を回復する」という意味のリハビリテーションという言葉に耳にします。希望館の子ども達は、様々な課題があっても決して、壊れた子どもではありませんから、治療的な対応よりも「育ち」を支えるリハビリテーションが、ふさわしいと考えます。希望館にたどり着くまで獲得できなかった環境を提供すること、そしてそれぞれの子どもたちが個性と主体性を発見して、自分の人生を生きるための「育ち」を支援すること。これが希望館が一貫して取り組んで来た「生活型情短」だと信じています。

《工事経過》

2013年 8月	公募型プロポーザル方式にて設計者選定
2014年6月	着工
2014年12月	部分引き渡し
2014年12月	ホーム児童引越
2015年5月	工事完了、
2015年6月	さつきホーム運営

《改築資金》

補助金等 合計	260,940千円
鳥取県補助金	161,280千円
鳥取市補助金	26,880千円
借入福祉医療機構	50,000千円
自己資金	22,780千円

工事資金 合計	260,940千円
施設整備（工事）	241,920千円
設計費	10,290千円
工事監理費	4,410千円
初度備品費	4,320千円

改築工事業者

設計・監理 (株) 山下設計工房

建設工事 株式会社 藤原組

旧生活棟には、様々な思い出が詰まっていた。いつも、いつまでもそこにたたずんで子ども達を育んできました。それでも老朽化が進み新しい生活棟が必要となりました。この度の改築は、培ってきた20年間の形にしようと2011年にプロジェクトをスタートしています。二年間の助走は、子ども達と職員の意見を基に夢と希望を実現するチャレンジでした。実現までの道のりは、迷うことばかりでしたが、公開プロポーザル方式で熱意のある設計者を選ぶことが出来たことは幸いでした。

着工から順調に工事が進み、年末には、生活棟の引越、本年六月には、すべての工事が完了する運びとなりました。

開設当時からの30人（入所）の定員は変わりませんが、「こぼと」、「わかば」、のぎく、「しらゆり」、に「さつき」が加わり五ホームでの運営が始まります。子ども達と共に歩んだ希望館20年間の営みは、一貫して「生活型情短」、「小舎ブロック体制」にありました。この度の改築は、今後の新設、改築の全国の情短施設のモデルケースとなり、この度の30人、5ホーム体制が更に「生活型」を問われることと予想しています。

この度の改築竣工と開設20周年を迎えることは、「自分も他人も大切にする。」という法人理念の実現のひとつのステップを歩んだのだと信じています。

法人を代表することを名誉として応援して下さった皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

引き続き、更なる応援をお願いして、改築事業の竣工と20周年の御報告とします。

目 次

巻頭言 希望館開設二十周年生活棟改築事業竣工応援ありがとうございました。 鳥取こども学園希望館 館長 西井 啓二	1
1 各施設の月別措置状況	4
2 2014年（平成26年）度事業報告	5
3 評議員会・理事会・法人事務局会議開催状況	20
4 各委員会年間活動	25
5 行事関係	31
6 実習・研修受入の状況	33

1 各施設の月別措置状況

定員： 児童養護施設 52名(本園40名 地域小規模6名×2)

乳児院 15名 情短施設 入所30名 通所15名

自立援助ホーム 鳥取フレンド9名 鳥取スマイル6名

保育所 160名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
児童養護施設	(未満児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(年少児)	52	51	51	51	52	52	52	52	52	51	51	619	
乳児院	(0～2歳)	12	13	13	13	13	13	13	14	13	13	13	156	
	(3歳以上)	14	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	175	
情短施設	入所	27	27	27	26	27	27	27	27	27	28	28	326	
	通所	7	7	7	11	11	12	13	13	13	13	13	133	
児童家庭支援センター	来所 実数	37	36	39	38	36	45	46	39	47	45	49	511	
	延数	76	76	60	87	87	111	122	97	92	102	97	1,110	
電話	実数	8	17	11	10	10	10	12	12	13	8	12	132	
	延数	30	38	22	34	19	31	28	43	25	14	21	321	
訪問	実数	3	1	6	3	5	5	2	2	1	2	3	36	
	延数	5	10	19	12	16	12	9	5	4	9	8	126	
一時保護	一時保護 実数	0	4	4	3	4	4	3	3	5	5	7	45	
	延数	0	47	14	20	85	64	9	42	61	58	40	478	
ショートステイ	実数	13	13	11	11	13	10	17	10	9	8	9	137	
	延数	55	53	35	41	39	36	62	32	41	32	34	517	
トワイライトステイ	実数	2	4	3	3	1	10	2	4	8	2	2	43	
	延数	2	6	6	4	3	18	3	6	10	2	2	64	
鳥取フレンド	7	7	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	85 一時保護(3)	
鳥取スマイル	2	3	3	3	3	3	2	2	2	3	2	3	31 一時保護(1)	
保育所	162	166	166	168	168	172	173	176	177	176	176	176	2,056	
子育て支援センター	利用家庭数	173	213	312	252	250	291	336	332	271	316	393	419	3,558
	1日平均	8	9	15	11	12	15	15	15	18	19	19	19	15

2 2014（平成26）年度事業報告

（1）法人本部

ア 事務部門の強化

（ア）平成26年度から新会計方式移行を機会に各施設バラバラに行われていた事務部門を統合し、法人総務部として新たな分業体制を作り、人事管理の統合、会計管理の統合を図りました。

（イ）人事部（吉田副園長を担当）と財務部（山根主任事務員を担当）の確立基盤を図りました。

イ 財政基盤の強化

（ア）緊急課題となっている法人運営基金創設をはじめとして、本部の財政強化のために後援会組織と連携して法人財政部の強化に努めました。法人寄付に合わせて5,000万円の改築寄付募集を行いました。開始時期の遅れやシステム化の遅れもあり、年度内には2,000万円程度の寄付金となりましたが、支援に感謝です。

（イ）寄付募集の過程で、NPO法人LIVING IN PEACEの方々との縁が結べたことは、今後の法人支援に繋がる大きな出会いとなりました。

ウ 改めて希望館生活棟の改築へのご協力に感謝申し上げます。

（ア）老朽化した希望館の改築工事に平成26年6月11日に着工し、完成は平成27年度にまたぐこととなりましたが、年内に4ホームが完成し児童は年末に引っ越し、新年を新しい建物で迎え歓喜しました。

（イ）最終完成は、平成27年5月中旬の予定です。

エ はまむら作業所の赤字解消に向けて

（ア）「就労継続支援B型」を休止し、「就労移行支援事業」を始めた初年度としては、赤字解消には至りませんでした。本園からの職業指導員や「ひだまり」との連携によって利用者の増加があり、平成27年度には採算の取れる運営が見込めるまでに改善ができました。

オ 自立援助ホーム倉吉スマイルを鳥取市内に移転し鳥取スマイルと改名

（ア）移転当初は入所児童が少なく、平成27年度に暫定定員になることを心配しましたが、男子のみの利用だった点を男女の利用と変更して入所児童が増えたことや県との特例協議によって、平成27年度は定員6名を維持できる見通しとなりました。

(イ) 移転によって、本体施設や鳥取フレンドとの連携も強化できました。

カ 人材確保と職員育成に勤めました。

(ア) 次年度職員採用試験を9月20～21日と追加募集を年明けの1月17日に実施しました。平成27年度より配置基準が大幅に改善されたことにより、平成27年度は、20名の退職者の補充も含め、23名の新規採用の予定となりました。

(イ) 研修体制強化を図りました。

人材育成の観点から新任職員研修を月1回に加えて、中堅職員の研修も年間を通じて行いました。外部への研修参加も積極的に取り入れました。

(2) 児童養護施設 鳥取こども学園

ア 入退所状況…年間を通じて99%の充足率となっている。

イ 家庭的養護推進計画の策定…平成23年7月にとりまとめられた「社会的養護の課題と将来像」の中で、社会的養護は、できる限り家庭的な養育環境で行われることを目指し、原則として家庭養護を優先するとともに、施設養護もできる限り家庭的な養育環境の形態としていくことが求められ、児童養護施設等の小規模化・地域分散化を目指すべき方向としている。当施設でも平成27年度を始期として平成41年度までの15年間（前期・中期・後期、各5年間）を期間とし小規模化・地域分散化や家庭養護の支援を進める具体的方策を定めた「家庭的養護推進計画」の策定を行った。

また、各施設の「家庭的養護推進計画」を元に社会的養護を要する児童を適切に養護しつつ、家庭的養護の推進や職員（養護）の質の向上を図ることによる社会的養護体制の充実を目的とした「鳥取県社会的養護推進計画」を県青少年・家庭課、3児相、鳥取県内児童養護施設及び乳児院各施設で会議を行い策定に至った。

(※上記2計画は、平成27年5月鳥取県ホームページに公開予定)

ウ 地域小規模児童養護施設3箇所目の開設にむけての取り組み…平成25年4月1日鳥取市吉成に2箇所目の地域小規模児童養護施設「こどもの家あかり」を開設及び本園の定員を39名から40名とし、全体定員を51名から52名とした。しかし、前述の通り充足率がほぼ100%で要保護児童の受け皿となり得ていない状況にあることから、地域小規模児童養護施設3箇所目を平成27年4月1日の開設にむけて準備を進めた。桜ヶ丘中学校・津ノ井小学校区（鳥取市桂木）へ開設に至り、定員を本体40名、地域小規模児童養護施設の3箇所×6名＝18名の計58名定員とする。

エ 中高生の自立支援…中高生の自立・進学に関して積極的な支援を行っていく「自立支援コーディネータ」としての職業指導員を再配置をした。就労、進学に向けての相談、アルバイトや児童によってはその前段階の就労体験の相談・調整等を法人内各施設・事業所と連携しながら支援を行った。今年度の再評価を行い、児童担当職員と連携しながらよりきめ細やかな支援を行っていききたい。

(3) 乳児院 鳥取こども学園乳児部

- ア 平成26年度は、5月には定員一杯となり、緊急の受け入れが難しい状況となった。児童相談所等とも連携をとって早期家庭復帰に向けての働きかけに力をいれた結果、例年より家庭復帰の人数が多くなった。それでも退所児があるとすぐ次が入所するという状態が続いており、緊急ケースを受ける空気が少ないという現状が現在も続いている。
- イ 平成26年度は、乳児部開設以来始めて酸素吸入の必要な幼児の受け入れをした。入所後、立てつづけの7回に及ぶ入院は、職員の疲労もピークとなり、開設以来初めて、ケアセンター（外部）に病院付き添いをお願いしたが、乳児部職員が入院付き添いをして病児に寄り添う基本姿勢は大切にした。
- ウ 親子交流が長年持てなかった幼児を、里親支援専門相談員を中心に関係機関やホーム職員などと連携を持って推進を図り、特別養子縁組前提で里親宅へ委託できた。
- エ 幼稚園年長クラスに通う肢体不自由を伴う幼児が、就学に備えて家庭復帰することを目標に関係機関が連携を取り、今後の支援体制を確立させて、家庭復帰の実現が図れた。
- オ 組織的運営やチームとしての基盤がもう少し弱いので、平成27年度の課題として取り組む予定

(4) 情緒障害児短期治療施設 鳥取こども学園希望館

ア 希望館生活棟改築整備事業

生活棟4ホームについては、平成26年12月16日に鳥取県による完成検査、12月25日に引き渡し、12月26日～28日引越。法人職員や関連業者の協力のもとで子ども達と希望館全職員で滞りなく引越しができた。

平成26年1月7日より、旧生活棟の解体作業が行われた。解体前の1月2日のOB・OG会では50名程のOB・OGや旧職員が集まり、旧生活棟のお別れ会が催された。工事期間中、法人内の防災委員会と環境施設委員会が中心となり、組織的な安全管

理及び環境整備（駐車場の確保等）が為された。

※ただし、グラウンドを駐車場にした為、鳥取みどり園の園児・職員・保護者には多大なるご迷惑をおかけした。お詫びとして、卒園式前の3月25日をグラウンド開放日とした。

新ホームを想定した支援体制作りについては、希望館全職員で議論し、職員体制や支援概念を構築した。

全体として、工期の延長（平成27年5月末完成予定）があったものの、子ども達や職員、建築業者が一体となって、思い描いた建物となった。

イ 各ホームの生活予算の自由裁量制への試み

生活予算の部分的な自由裁量制については、全ホーム定着した。今後の課題として、生活予算の自由裁量を拡大するためには、会計処理の抜本的見直しや予算立ての枠組み作りが必要である。

ウ 通所部門

通所部門と子ども家庭支援センター「希望館」との連携を充実させ、支援センターの継続支援の選択肢として通所部門の活用を促進。具体的には、複数のケースについて支援センターで社会調査、心理判定、行動観察を実施し児童相談所に児童通告を行い通所措置に結びつけた。

分校・分教室に適応困難な児童のための通所（通称：てくてく）を、「不登校児童等グループケア」として位置付け居場所を提供するとともに、個々の成長に応じ分校・分教室へと円滑にステップアップしていけるよう、通所スタッフ連携会議を毎週開催した。成果として、1人の通所児が分校学籍となった。

セラピストの専門職能の向上が課題となっており、平成26年度は現在分校・分教室に配置しているセラピストを児童指導員に置き換えるための準備年度とした。しかし、制度上情短施設の通所は障害児通所施設に準ずるとしながら、いまだに昭和42年の中央児童福祉審議会意見具申を準用し「概ね児童15人につき2人以上」での運営が継続されている。知的障害児通園施設では既に児童4人につき1人の基準に改定されており、関係機関との協議、対応が急がれる。

分校・分教室へは治療教育に意欲を有する専門教員の配置が基本であり、機会を捉え特別支援教育教諭免許等有資格専門教員の配置について働きかけを行った。

(5) 自立援助ホーム「鳥取フレンド」・「鳥取スマイル」

ア 子どもの主体性を尊重した自立支援の徹底

入所する子どもたちやOBの生活を見ると、基本的な生活水準の確保のみならず、よりよく“生きること”を主体的に選びとるということにおいては、まだまだ不十分な面があり、今までの“生活”に対する見直しと新しい概念・支援の構築について実践・検討をおこなった。

(ア) 生活向上

穏やかに自分の時間を過ごすことの価値や方法（暇な時間を過ごせない、価値あるものとは思えない）に対して子どもたちの気づきがなされるような環境設定を行った。また就労に限らず、定時制高校進学・資格取得についても支援の在り方を検討し、具体的な支援体制の構築を行った。

- ・鳥取フレンドでは1室を「オーディオ部屋」として利用。大型TVとBDレコーダーを設置。寮生が1人でゆったりと映画などを見る環境設定を行った。
- ・鳥取フレンド・鳥取スマイル共に寮生用のパソコン・インターネット環境の整備に努めた。
- ・定時制高校へ進学するものはいなかったものの、すでに在籍している寮生に対して学校と連携して支援を実施。連絡帳を活用し、学校－ホーム間の連携を密にすることによって今まで単位を落としていた寮生が支援開始後は単位をすべて取ることができた。資格取得については普通自動車免許を取得した寮生がフレンド・スマイル合わせて2名であった。

(イ) ホーム内連携の強化

フレンドリーの会を月1回開催。月ごとに検討する寮生を1人決め、時間を掛けて支援について検討を行った。

定期的な実施はできなかったが、月1、2回程度はそれぞれのホームで全職員が集まり、引継ぎの中で各寮生の支援状況について確認を行い、支援についての見直し、役割分担を行った。

(ウ) 通年を通じたケースの検討

“生活的な支援とは何か？”をテーマとして、職員1人につき、入所児童1人をターゲットにし、ケース記録をまとめていく予定であったが、十分な検討を行うことができなかった。

イ 支援体制の強化～スマイルの鳥取市移転による体制強化～

(ア) ブロック体制による運営強化

倉吉スマイルが鳥取市移転や鳥取県の体制整備強化（各ホーム＋1名／フレンド定員8名職員4.5人、スマイル定員6名職員4人態勢）により、自立援助ホームとのブロック体制の強化を実施。さらに事務作業の一元化するなどの業務効率の改善について検討を行った。

- ・総括寮長の配置は実施。両ホームをまたぐフリー職員についてはその役割を明確化することができず、配置に至らなかった。
- ・総括寮長については2つの自立援助ホームの運営・支援のスーパーバイズに加えて、両ホームへの入所打診時には関係機関に出向き、入所調整・両ホームへの割り振りを行った。
- ・事務については担当者を設け、両ホームの書類作成を一括して作成するように努めた。

(イ) 支援体制の強化～アフターフォロー体制の強化とホーム孤立化の防止～

夜の体制については常時3名の体制を作ることは出来なかったが、深夜2.5人～3.0人体制で支援を行った。

フレンド職員→スマイル勤務が月1回程度、スマイル職員→フレンド勤務が週1、2回程度行い、双方の連携の充実を図った。

鳥取スマイルでは退寮者に対して、就労継続支援（送迎など）、普通自動車免許支援、日常の困りごとに対する相談などの通所支援を実施した。

ウ 法人内外関係機関との連携強化

(ア) 利用の可能性がある子どもの把握とケースカンファレンスへの参加

昨年度は法人内の養護施設・情緒障害児短期治療施設を中心に、入寮の可能性がある児童についてケースカンファに参加することで入所前からの情報共有を行った。

法人外の入所打診について、入所には至らなかったものの就労相談を受け、地域の就労支援機関につなげた。

パンフレットを作成し、年度当初に各機関をめぐり、情報提供を呼びかけた。

(イ) 社会的養護にかかわる支援機関との連携強化

2014年8月1日に鳥取県の各自立援助ホーム協議会、各児童相談、鳥取県（青少年家庭課）と連絡会を実施。支援・運営上の課題について情報共有を行った。

月1回のフレンドリーの会に各児童相談所の児童福祉司を招き、ケース検討を行った。

入寮の可能性がある児童養護施設入所児童についてはケースカンファレンスに参加し、情報共有を行った。

(ウ) 就労支援機関、障害者支援機関との連携

障害者職業センター、障害者相談支援事業所、障害者就労・生活支援センターと連携をし、障がいのある寮生に対して就労支援、グループホームへの入所支援を行った。

エ その他

(ア) 職員研修…法人が実施するケースワーカー研修にスマイル職員が参加。

(イ) 記録について

フレンド・スマイルとで統一したフォーマットを作成することはできなかったが、双方のケース記録の書き方について見直しを行った。

過去10年分の寮生のデータについて整理を行った。その中で就労状況と退所後の状況の関係、アフターフォローの重要性について検討を行った（結果については鳥取養育研究会研究発表大会分科会②「自立支援からみえる青少年の貧困」で発表）。

実習生の受け入れ（8月19日～21日よなご若者サポートステーション、12月30日～1月3日 LIVING IN PEACE、2月25日～26日若者独立塾 丸亀おひさま荘）

(6) 児童家庭支援センター・里親支援機関事業

ア 子ども家庭支援センターは、「児童家庭支援センター」、「里親支援とっとり」の他「一時保護所受付調整窓口」、「里親支援専門相談員業務」、「電話相談業務管理」。環境としては、「希望館通所部業務」がある。これらを一括管理するため毎週「支援センター連絡会議」で業務連携を図る他、月末には「鳥取みどり園 わくわく子育て支援センター」や弁護士が参加する「地域養育支援会議」を開催し、ケーススタディを通じて連携と職員の質の向上を図った。

イ 子ども家庭支援センター「希望館」の相談機能の充実…昨年度に引き続き、相談の質の向上を目標として、ケース検討の機会を増加し、職員相互のスーパービジョンの体制を習慣化し着実に個々の職員のスキルアップに効果を認めている。

ウ 組織連携の向上…多分野の相互スーパービジョンによって、有効な連携と職員の資

質はもとより意欲向上に至った。特にすみれホームを一時保護所として、児相の委託児童はもとよりショート・トワイライトステイ児童についても、詳細な行動観察と記録を関係機関に提供することが重要なアセスメント資料として活用可能な水準に達し、協働のケースワークの基本とすることができた。

エ 他機関連携…鳥取市要対協実務者会議への参加が定着し、鳥取市・鳥取市教委・児相との相互理解と役割分担等で児童家庭支援センターの存在意義と役割が明確となった。また、必要なケースには、当センターで社会調査・心理診断・行動観察を実施し、アセスメント資料に意見を附して児童相談所に文書通告としたことで連携の円滑化を図った（通所部措置へのケースワーク事例有り）。

オ 里親支援とっとり…里親・施設職員・県担当課・児相等の関係機関との連携は、年度を重ねていることから更に円滑となり、全県的な里親委託への機運は高まっている。他県からも注目されており活動についての照会が多々あった。里親委託率は平成26年度10月付で20,6%と全国的に高水準を保っているが、高い委託率と比例するように不調ケースの発生もある。支援体制の充実に向け当所の役割の重要度も増してきている。

カ 児童家庭支援センターの意義…補助金対象となっている児童家庭支援センターのスタッフは3人と限界があるが、法人内連携を十分に活用し、他県に比して先進的な取り組みとなっている。平成26年度は、法人内での児童家庭支援センターの役割が更に明確となったと思量している。特に法人内外へのコーディネート活動は、拡大の方向にある。

(7) 鳥取みどり園

ア 利用状況・・・定員160名で定員に対し110%の利用があり平均106%の園児が利用があった。

イ 子ども一人ひとりに丁寧に関わり、発達の保障につなげる。必要な場合はこども発達家庭支援センター等の関係機関との連携を積極的に持ち指導を受ける。苦情…年間を通しては少なかったが、保護者や地域の方からの苦情や要望が生じたときは、職員間で話し合い共有の強化を図った。保護者や地域の方とも話し合い、理解を得て解決に至っている。保護者との信頼関係を深めるようにするのも今後の課題である。

ウ サービス向上・・・保育の質の向上、接遇について等の研修や話し合いを重ね、職員の質の向上につなげる。

エ 保護者や地域の方からの苦情や要望が生じた時は、話し合いを持ち、解決に至って

いる。職員間でも問題意識を持って話し合い、改善策等の共有を図った。また、日頃より家庭との連携を密にして、信頼関係を深めるようにする。意見や要望など言いやすい環境作りは今後の課題

オ 園庭が使用できない部分を園外保育や毎日の体操を通して体力作りにつなげるようにする。

(8) 診療所「こころの発達クリニック」

ア 地域の児童精神科診療所機能…県下に数少ない児童精神科を専らとする診療所で、全スタッフで一人一人の患者様に丁寧にできるだけ時間をかけて関わることにしている。そのため、初診待ちが長期となってしまうっており、現在、初診は原則18歳未満にさせてもらっている。

イ 患者様の支援にあたっては、関連福祉教育機関との連携も積極的に行ない、包括的支援を心がけている。

ウ 診療休診時間帯を利用し、地域の他福祉施設入所中の患者様や引きこもり状態で来院が困難な患者様に対しての往診治療を行っている。

(9) 地域若者サポートステーション

ア とっとり若者サポートステーション

(ア) 相談支援事業…東部の事務所を拠点に事業を展開。中部は中部総合事務所にて週2回出張相談を開催。新規登録者は75人であった。のべ来所者数は1,784人(東部1,461人、中部557人)であり、のべ相談件数1,692件(来所相談1,405件、電話・メール相談167件、訪問相談120件)であった。登録者・未登録者の内訳は、来所相談の登録者1063件、未登録者342件、電話・メール相談の登録者105件、未登録者62件、訪問相談の登録者26件、未登録者94件であった。平成26年度ののべ進路決定者数は50人であった。

(イ) 若者キャリア開発プログラム事業…グループワーク全83回実施し、のべ参加人数241人であった。また、ジョブトレーニング(職場体験、職場見学)を全45回実施し、のべ参加人数93人であった。

(ウ) 関係機関との連携…登録者の紹介元件数は、労働分野8件、保健・福祉分野12件、教育分野、法人内5件であった。また、発達障がい者就労支援ネットワーク会議等

各分野の関係機関会議に参加した。

- (エ) 支援対象候補者の把握及び広報・周知活動…「社会的自立に困難を感じている若者の理解とサポート～知ろう、動こう、考えよう～」をテーマに講演会を開催（県民ふれあい会館／平成26年11月24日）。支援対象者、支援対象者の家族、各分野の関係機関職員等が集まった。また「困難を抱える若者に寄り添うフォーラム」「発達障がい者専門支援員養成研修」等に講師として参加。また、関係機関へのチラシ配布や、求人チラシを用いた広報を行った。
- (オ) サポステ・学校連携推進事業…のべ相談件数は107件（家庭訪問14件、教育機関訪問93件）。実人数は28人。学校訪問回数は38回（県立鳥取緑風高校26回、鳥取敬愛高校5回、県立智頭農林高校7回）であった。
- (カ) 社会人基礎力習得支援（サポステ塾）は、実人数2名にのべ支援回数42回実施した。

イ よなご若者サポートステーション

- (ア) 相談支援事業…西部の事務所を拠点に事業を展開。各地域への出張相談として、月2回境港市（計24回）と月1回米子市立図書館（計11回）、月1回大山町（計12回）にて実施した。新規登録者は86人であった。のべ来所者数は1,568人であり、のべ相談件数1,885件（来所相談1,222件、電話・メール相談140件、訪問相談523件）であった。登録者・未登録者の内訳は、来所相談の登録者1,000件、未登録者222件、電話・メール相談の登録者75件、未登録者65件、訪問相談の登録者8件、未登録者515件であった。平成26年度のものべ進路決定者数は51人であった。
- (イ) 「若者キャリア開発プログラム事業…グループワーク全83回実施し、のべ参加人数113人であった。またジョブトレーニング（職場体験、職場見学）を全12回実施し、のべ参加人数13人であった。
- (ウ) 関係機関との連携…登録者の紹介元件数は、労働分野30件、保健・福祉分野14件、教育分野12件であった。また、鳥取県若者自立応援ネットワーク会議をはじめ、各分野の関係機関会議に参加した。
- (エ) 支援対象候補者の把握及び広報・周知活動…「社会的自立に困難を感じている若者の理解とサポート～知ろう、動こう、考えよう～」をテーマに講演会を開催（県

民ふれあい会館／平成26年11月24日)。支援対象者、支援対象者の家族、各分野の関係機関職員等が集まった。また「困難を抱える若者に寄り添うフォーラム」「発達障がい者専門支援員養成研修」等に講師として参加。また、関係機関へのチラシ配布や、求人チラシを用いた広報を行った。

(オ) サポステ・学校連携推進事業…のべ相談件数は514件（家庭訪問13件、教育機関訪問501件）。実人数は119人。学校訪問回数は113回であった。内訳は、米子白鳳高校が実人数40人で38回訪問、日野高校が実人数30人で31回訪問、境港総合技術高校が実人数38人で23回訪問、米子東高校が実人数5人で10回訪問、米子松蔭高校は実人数6人で11回訪問した。高校中退者等対象者数は37人であった。

(カ) 社会人基礎力習得支援（サポステ塾）は、実人数12名にのべ支援回数113回実施した。

(キ) サポステ・学校連携推進事業…高校中退者等対象者数は47人であり、相談件数はのべ133回・訪問回数は52回であった。内訳は、米子白鳳高校が実人数15人で19回訪問、日野高校が実人数13人で17回訪問、境港総合技術高校が実人数18人で15回訪問、米子松蔭高校は実人数1人で1回訪問した。

(10) はまむら作業所

ア 利用者の確保、利用率の増

昨年同様、年間を通し、相談支援事業所、市内の精神科等への営業継続実施した。また、精神科等の個別対応が必要な方の受け入れ、個別支援が特に必要な方（発達障害や精神障害と知的障害の重複等）の受け入れ対応を行うべく、市内の支所や保健師に説明及び営業を積極的に行った。さらに、開設当初からの重要な事でもある、児童養護施設出身のOBやOG、関係者の受け入れ、支援も実施した。

作業プログラムに関して、農作業以外の作業も取り入れたり、グループワークを実施したり、利用者の就職に向けての「基礎作り」を本年は取り組んだ。個別の面接時間等確保にも努め、積極的に利用者の個別ニーズや現状把握、不安感等の傾聴する時間確保をした。自主事業として本年より取り組み始めた白ネギ生産参加場面にみられるように、事業開始3年目にして、利用者間に「チームで仕事をする」という事が芽生え、それは出勤（利用率）増、10月以降の延べ利用者数増に結果として表れた。

イ 個別ニーズへの対応と支援体制の充実

開設当初より実施している、はまむら作業所利用者への「生活支援や助言」も本年も実施した。これは、就労準備だけでなく、「生活」そのものが脆弱な状況下では、就労継続に結びつかない為、何とか応援したいからである。昨年からの継続支援であるが、利用者が就労し生活し続ける事ができる為に、生活基盤が安定する為に、①積極的に利用者スタッフはコミュニケーションをとり、アセスメントやその支援に繋げ、②概ね月1回程度のレクリエーション実施、③手作り料理の提供（ほぼ全員が低所得者の為）、④地域住民との日常的な交流の継続、リラクゼーションの時間確保、⑤人間関係の再構築等も図った。また、法人内の支援関係者からの支援に関する助言や連携も継続し、また、各種医療福祉関係者と支援課題の共有も積極的に行った。結果、利用者の支援課題も早期発見・早期対応ができ、それが支援ニーズの再獲得にもつながり、支援全体へのフィードバックへとつながっている。

ウ 就労機会の増、就労支援体制の工夫

平成26年度は、鳥取県障害者課の農福連携の担当者の協力もあり、年間を通し、昨年より作業収入増となる事が出来た。鳥取県農福連携事業に参加して本年が2年目であるが、年間通して作業収入増につながり、利用者工賃に還元ができた。開設当初に比べ、この農福連携事業の支援もある事で、また、この事業に参加している農家さんの御協力もあり作業環境や作業賃等の労働環境も改善し、事業所として大変助かっている。

また、鳥取こども学園本体としての協力もあり、就労支援体制の充実となった。具体的には、就労支援連携連絡会定期実施において、法人内の各事業所と現状報告と課題等が議論、さらに法人担当の職業指導員と共に、企業実習や作業受け入れの開拓等協力して行った。結果、農作業以外の作業がはまむら作業所に導入できたり、市内の企業において就労の実習につながった。

(11) 鳥取養育研究所

ア 研究事業

(ア) 第9回研究発表大会の開催

テーマ：「子どもの貧困を考える ～子ども時代の幸せ 平等のために～」

期 日：平成27年2月1日（日）

場 所：鳥取県福祉人材研修センター

内 容：研究実践分科会及びシンポジウム

分科会Ⅰ 「乳幼児期の関わりの大切さについて考える」

発表者：田村 勲（NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク鳥取 理事）
山中八寿子氏（鳥取市こども発達・家庭支援センター 所長）

分科会Ⅱ 「自立支援からみえる青少年の貧困」

発表者：内藤直人（自立援助ホーム鳥取フレンド 寮長）
鷺見智明（自立援助ホーム鳥取スマイル 保育士）

報 告 「ヤヌシュ・コルチャック先生の足跡を訪ねるポーランドツアー報告」

発表者：西井啓二（鳥取こども学園希望館 館長）

シンポジウム「子どもの貧困を考える」

シンポジスト：大塩孝江（母子生活支援施設 倉明園 施設長）

福田泰雅（赤碕保育園 園長）

福島史子（伯耆町教育委員会・鳥取県立白鳳高等学校スクールソーシャルワーカー）

コーディネーター：田丸敏高（福山市立大学 教育学部 教授）

(イ) 児童福祉研究会…現代の児童福祉における生活の意義について研究を行うために、有識者（研究者・実践者）とのミーティングを数回実施した。今後研究をすすめていくにあたっての様々な知見を求めることができ、来年度につなげたい。

(ウ) 保育・評価研究会…第三者評価機関の設立に向けて、社団法人ひだまりと検討を開始した。事務局体制の確立が困難を極めたため、今後の検討課題とすることとした。

(エ) 伝記制作プロジェクト…平成26年度は、これまでにデータ化した資料（テープ起こし原稿など）を各メンバーが確認し、今後このデータをどのように形にしていくかをそれぞれで検討するにとどまった。次年度は各メンバーのアイデアを持ち寄り、具体的な検討へとステップアップしていきたい。

(オ) 戦前～戦後における鳥取県の児童福祉の歩み

第21回 平成26年9月3日～5日

明治期末～昭和20年代の鳥取こども学園社会福祉史関連資料をすべて電子媒体で保存した。

これで社会福祉法人鳥取こども学園に残されていた社会福祉史関連資料（明治期末以降～昭和20年代）の文書類560点（約2万枚）、写真285枚のデジタル保存及び書籍284点の検索システム（どんな書籍がどこにあるか）が今年度で完了し、今後の社会福祉史研究の土台ができた。

第22回 平成27年3月12日

今後の方針として資料の解読作業を実施することとし、資料公開は見送ることにした。そして資料の解読作業を始める前に「日本の社会福祉の歴史」の勉強会を実施した。

講義内容：日本の社会福祉の歩み～明治から戦後直後まで～

講 師：小池 桂（徳山大学教授）

日 時：平成27年3月12日（木） 13：30～15：30
場 所：社会福祉法人鳥取こども学園 教育棟研修室

（カ）定例研究会…今年度は実施しなかった。

イ 研修事業

（ア）第4回子どもと施設の権利擁護全国ワークショップの開催

第1回から第3回に引き続き、児童福祉施設で生活する子どもたちの権利擁護をテーマに、ワークショップを開催した。研究者・施設職員による講座や演習による施設内での支援方法、施設内虐待防止の対応など、これまでのワークショップでの成果をさらに深めていった。

第1日12月3日（水）

基調講演：「子どもの権利と社会的養護」

講師：藤野興一（全国児童養護施設協議会会長、鳥取こども学園園長）

シンポジウム：「子どもと施設の権利擁護とはどうすることか」

シンポジスト：乳幼児期の権利擁護 徳岡洋子氏（米子聖園天使園園長）

児童期の権利擁護 小坂宗司（因伯子供学園保育士）

地域小規模児童養護施設の権利擁護 坂口泰司（鳥取こども学園地域小規模ホーム長）

コーディネーター兼務：青年期の権利擁護 内藤直人（鳥取フレンド寮長）

第2日12月4日（木）

施設で生活する子どもの権利その1（講座）：「何故？施設で生活をしなければならないのか？」

講師：西井啓二（鳥取こども学園希望館館長）

施設で生活する子どもの権利その2（講座）

講師：米田怜美（鳥取こども学園鳥取養育研究所副運営委員長）

【選択講座】

講座A：「子どもの発達と意見表明」

講師：田丸敏高（福山市立大学教育学部（発達心理学）教授）

講座B：「次世代を育成する権利擁護チームの取り組み」

講師：石田航（鳥取県児童養護施設協議会権利擁護チーム研修チームリーダー）

演習1：「子どもの発達と大人の役割～理解から協働へ～」

西井啓二（鳥取こども学園希望館館長）

前川洋史氏（母子生活支援施設つくし少年指導員）

田村崇（自立援助ホーム「鳥取スマイル」寮長）

青島茂雄（鳥取県福祉相談センター児童福祉司）

野田慎二（因伯子供学園保育士）

坂口泰司（鳥取こども学園地域小規模ホーム長）

岸田有加（子ども家庭支援センター「希望館」チーフソーシャルワーカー）

瀬尾麻実（鳥取県福祉相談センター児童心理司）

米田怜美（鳥取養育研究所副運営委員長）

第3日目12月5日（金）

演習2：「権利擁護のセンスを磨こう」

西井啓二（鳥取こども学園希望館館長）

前川洋史氏（母子生活支援施設つくし少年指導員）

田村崇（自立援助ホーム「倉吉スマイル」寮長）

青島茂雄（鳥取県福祉相談センター児童福祉司）

野田慎二（因伯子供学園保育士）

岸田有加（子ども家庭支援センター「希望館」チーフソーシャルワーカー）

坂口泰司（鳥取こども学園地域小規模ホーム長）

瀬尾麻実（鳥取県福祉相談センター児童心理司）
米田怜美（鳥取養育研究所副運営委員長）
意見交換：進行 田村崇（副実行委員長） 西井啓二（実行委員）

（イ）特別企画

子どもの権利条約批准20周年記念「コルチャック先生の足跡を訪ねるポーランドツアー」

日時：平成26年9月26日～10月2日

場所：ポーランド

経費：30万円前後（自己負担）※研究所員1名分については、鳥取養育研究所が費用負担

内容：ユダヤ人墓地（墓参&記念碑の顕彰）、コルチャック研究所（ドムシエロ孤児院内）

子どもの権利擁護委員会、トレ布林カ強制収容所等視察

参加人数：18名（うち研究所員8名）

研修報告：第4回子どもと施設の権利擁護全国ワークショップ

第9回研究発表大会

養育研ニュース2014. 冬号Vol. 7

（ウ）公開講座の開催

平成26年度総会記念講演

演題：「絵本でひらく子育ての世界～ブックスタートを手がかりに～」

講師：田丸 尚美氏（福山市立大学非常勤講師／鳥取市こども発達・家庭支援センター心理相談員）

期日：平成26年5月31日（土）13：30～15：00

場所：伯耆しあわせの郷

第9回研究発表大会記念講演

演題：「地域とつながりひとりぼっちの子どもをなくしていきたい」

講師：幸重 忠孝氏（幸重社会福祉士事務所 代表）

期日：平成27年2月1日（日）

場所：鳥取県立福祉人材研修センター

平成26年度児童福祉施設等職員基礎研修会

平成26年度児童福祉施設等中堅職員研修会

平成26年度児童福祉施設等ケースワーカー研修会

ウ 普及事業

（ア）ニュースの発行…3回発行

（イ）ホームページの充実…大会・研修等の情報発信は例年通り。計画にあるようなプラスαの活動はできなかった。

（ウ）研究紀要の発刊…紀要をまとめるにあたり、編集委員会体制について議論した。

そのなかで、紀要をまとめることよりも先に「子どもの権利ワークショップ」や「研究発表大会」での報告集を作成することにまず専念すべきと確認し合い、主な2つの事業の報告集を作成することを今後の課題とすることとした。

（エ）各種学会等への参加及び発表…各種学会への発表はなかった。

（オ）「子どもの権利フォーラムとっとり」実行委員会参加団体に加盟・協力

「子どもの権利条約批准20周年・採択25周年記念 子どもの権利フォーラムとつとり」と題するシンポジウム開催（平成26年11月9日、県民ふれあい会館）に協力。

エ 各種会議（総会・役員会議・運営委員会・事務局会議の開催）

役員会：平成26年4月20日

運営委員会・事務局合同会議：平成26年7月4日

運営委員会：平成26年10月17日

平成27年2月6日

3 評議員会・理事会開催状況

(1) 評議員会5回・理事会6回

ア 第1回評議員会

平成26年5月23日(金)

午後6:40~8:38

場所 鳥取こども学園 管理棟会議室

出席者 評議員13名(定数19名) 陪席者11名
監事2名

- 議 題 (1) 平成25年度事業報告書(案)について
(2) 平成25年度決算書(案)及び監査報告について
①法人本部②鳥取こども学園③鳥取こども学園乳児部
④鳥取こども学園希望館⑤鳥取みどり園
⑥子ども家庭支援センター希望館⑦鳥取フレンド
⑧倉吉スマイル⑨とっとり若者サポートステーション
⑩米子若者サポートステーション⑪こころの発達クリニック
⑫はまむら作業所⑬鳥取養育研究所
⑭里親支援機関事業⑮電話相談事業
(3) 鳥取こども学園希望館改築整備事業について
(4) 定款変更について
(5) 諸規定の改正について
(6) 鳥取こども学園後援会決算について
- 報告事項 ①鳥取こども学園希望館改築整備事業の募金活動について
②鳥取県地域生活支援事業の実施計画(案)について

イ 第1回理事会

平成26年5月23日(金)

午後 8時39分

場所 鳥取こども学園 管理棟会議室

出席者 理事8名(定数9名) 陪席者12名
監事2名

- 議 題 (1) 平成25年度事業報告書(案)について
(2) 平成25年度決算書(案)及び監査報告について
①法人本部②鳥取こども学園③鳥取こども学園乳児部
④鳥取こども学園希望館⑤鳥取みどり園
⑥子ども家庭支援センター希望館⑦鳥取フレンド
⑧倉吉スマイル⑨とっとり若者サポートステーション
⑩米子若者サポートステーション⑪こころの発達クリニック
⑫はまむら作業所⑬鳥取養育研究所

⑭里親支援機関事業⑮電話相談事業

- (3) 鳥取こども学園希望館改築整備事業について
- (4) 定款変更について
- (5) 諸規定の改正について
- (6) 鳥取こども学園後援会決算について

- 報告事項 ①鳥取こども学園希望館改築整備事業の募金活動について
②鳥取県地域生活支援事業の実施計画（案）について

ウ 第2回理事会

平成26年8月21日（木）

午後6:30～8:48

場所 鳥取こども学園 管理棟会議室

出席者 理事8名（定数9名） 陪席者8名
監事1名

- 議題 (1) 児童養護施設小規模グループケア（3ヶ所め）の開設について
(2) 独立行政法人福祉医療機構借入に係る承認事項
①保証人について
②担保（希望館建物、土地）について
③償還期間が15年について
(3) 定款変更について

- その他 ①任期満了に伴う役員を選出について（案）
③法人の人事構想について（短期・長期）
③社会福祉法人の在り方（社会的養護の動向を含む）について

オ 第3回理事会

平成26年9月25日（木）

午後6:18～6:42 7:03～7:10

場所 鳥取こども学園 管理棟会議室

出席者 理事9名（定数9名） 陪席者10名
監事1名

- 議題 (1) 任期満了に伴う評議員の改選について
(2) 任期満了に伴う理事長の互選並びに常務理事の委嘱について

- 報告事項 ①定款（別紙 建物目録）変更について
②「鳥取こども学園希望館改築募金」について
③平成25年度未収金について

カ 第2回評議員

平成26年9月25日（木）

午後6:30～7:30

場所 鳥取こども学園 管理棟会議室

出席者 評議員15名（定数19名） 陪席者9名

監 事 1 名

- 議 題 (1) 任期満了に伴う評議員の改選について
(2) 任期満了に伴う理事長の互選並びに常務理事の委嘱について
- 報告事項 ①定款(別紙 建物目録)変更について
②「鳥取こども学園希望館改築募金」について
④平成25年度未収金について

キ 第3回評議員会

平成26年12月18日(木)

午後6:00~6:42

場所 白兔会館会議室

出席者 評議員11名(定数19名) 陪席者8名
監 事 2 名

- 議 題 (1) 鳥取こども学園希望館改築整備事業工期延長に伴う補正予算について
(2) 鳥取こども学園希望館改築整備事業工期延長に伴う変更契約について
- 報告事項 ①児童養護施設地域小規模3ヶ所めについて
②職員採用について

ク 第4回理事会

平成26年12月18日(木)

午後6:30~6:53

場所 白兔会館会議室

出席者 理 事 8 名(定数9名) 陪席者8名
監 事 2 名

- 議 題 (1) 鳥取こども学園希望館改築整備事業工期延長に伴う補正予算について
(2) 鳥取こども学園希望館改築整備事業工期延長に伴う変更契約について
- 報告事項 ①児童養護施設地域小規模3ヶ所めについて
②職員採用について

ケ 第4回評議員会

平成27年2月26日(木)

午後6:30~8:09

場所 鳥取こども学園 管理棟会議室

出席者 評議員14名(定数19名) 陪席者12名
監 事 1 名

- 議 題 (1) 平成26年度補正予算(案)について
- ①法人本部②鳥取こども学園③鳥取こども学園乳児部
④鳥取こども学園希望館⑤鳥取みどり園
⑥子ども家庭支援センター希望館⑦鳥取フレンド⑧鳥取スマイル
⑨はまむら作業所⑩こころの発達クリニック⑪鳥取養育研究所

⑫とっとり若者サポートステーション（鳥取県）

⑬よなご若者サポートステーション（鳥取県）

(2) 鳥取みどり園園長退任に伴う後任について

鳥取みどり園園長交代に伴う評議員の交代について

報告事項 ①平成27年度からの制度改正の概要資料

②鳥取こども学園法人監査 指摘予定事項について

③鳥取こども学園職員採用試験の結果について

コ 第5回理事会

平成27年2月26日（木）

午後8:10～8:13

場所 鳥取こども学園 管理棟会議室

出席者 理事8名（定数9名） 陪席者13名

監事1名

議題 (1) 平成26年度補正予算（案）について

①法人本部②鳥取こども学園③鳥取こども学園乳児部

④鳥取こども学園希望館⑤鳥取みどり園

⑥子ども家庭支援センター希望館⑦鳥取フレンド⑧鳥取スマイル

⑨はまむら作業所⑩こころの発達クリニック⑪鳥取養育研究所

⑫とっとり若者サポートステーション（鳥取県）

⑬よなご若者サポートステーション（鳥取県）

(2) 鳥取みどり園園長退任に伴う後任について

鳥取みどり園園長交代に伴う評議員の交代について

報告事項 ①平成27年度からの制度改正の概要資料

②鳥取こども学園法人監査 指摘予定事項について

③鳥取こども学園職員採用試験の結果について

サ 第5回評議員会

平成27年3月26日（木）

午後6:30～8:07

場所 鳥取こども学園 管理棟会議室

出席者 評議員14名（定数19名） 陪席者12名

監事2名

議題 (1) 平成27年度事業計画（案）について

(2) 平成26年度補正予算の科目訂正について

(3) 平成27年度予算（案）について

①法人本部②鳥取こども学園③鳥取こども学園乳児部

④鳥取こども学園希望館⑤鳥取みどり園

- ⑥子ども家庭支援センター希望館⑦鳥取フレンド⑧鳥取スマイル
- ⑦はまむら作業所⑩こころの発達クリニック⑪鳥取養育研究所
- ⑫とっとり若者サポートステーション
- ⑬よなご若者サポートステーション

(4) 定款変更について

(5) 就業規則の改定について

- 報告事項 ①「鳥取こども学園希望館改築募金」経過報告について
- ②ネット利用による寄付金募集の促進について
 - ③鳥取こども学園希望館竣工式について

シ 第6回理事会

平成27年3月26日(木)

午後8:08～8:22

場所 鳥取こども学園 管理棟会議室

出席者 理事8名(定数9名) 陪席者13名
監事2名

議題 (1) 平成27年度事業計画(案)について

(2) 平成26年度補正予算の科目訂正について

(3) 平成27年度予算(案)について

- ①法人本部②鳥取こども学園③鳥取こども学園乳児部
- ④鳥取こども学園希望館⑤鳥取みどり園
- ⑥子ども家庭支援センター希望館⑦鳥取フレンド⑧鳥取スマイル
- ⑧はまむら作業所⑩こころの発達クリニック⑪鳥取養育研究所
- ⑫とっとり若者サポートステーション
- ⑬よなご若者サポートステーション

(4) 定款変更について

(5) 就業規則の改定について

- 報告事項 ①「鳥取こども学園希望館改築募金」経過報告について
- ②ネット利用による寄付金募集の促進について
 - ③鳥取こども学園希望館竣工式について

(2) 法人事務局会議 11回

4/16、5/7、7/23、8/20、9/24、10/22、
11/26、12/24、1/28、2/18、3/18に開催。

理事長・各施設長・各副施設長等をメンバーとして、各施設の運営状況を報告し、法人運営全般について打ち合わせた。

4 各委員会年間活動

(1) 防災委員会

月	日	時間	活 動 内 容
4月	22日	14:00	防災管理委員会 防災委員会
	23日	16:40	防災訓練(乳児部単独・衣類乾燥機)(火災想定)
		18:00	防災訓練(わかば)(火災想定)
			避難経路図確認
			防火責任者・火気取締責任者確認
5月	16日	16:40	防災訓練(乳児部単独)(地震想定)
	22日	10:00	総合防災訓練(みどり園)(火災想定)(消火器)
6月	9日	14:00	防災委員会
	12日		工事期間注意事項の作成・配布
	19日		外来駐車場の変更お知らせ作成・配布
	20日	16:00	防災訓練(乳児部単独)(不審者想定)
	25日	18:00	防災訓練(しらゆり)(火災想定)
7月	1日	9:00	救急救命法講習
	2日		ガス工事に伴う駐車場制限のお知らせ作成・配布
	23日	16:45	防災訓練(どんぐり)(火災想定)
8月	2日	22:00	深夜訓練(入所施設全館)(地震・火災想定)
	12日	14:00	防災委員会
	27日	9:30	非常持出袋 確認・更新作業
9月	18日	10:00	竜巻講習会
	22日	16:00	被災地の体験を聞く会
	24日	16:00	防災訓練(こすもす)(火災想定)
10月	7日	10:00	防災訓練(みどり園)(火災想定)
	10日		駐車場利用制限のお願い 通知(10/18.19)
	20日	15:30	防災訓練(乳児部単独・衣類乾燥機)(火災想定)
	21日	14:00	防災管理委員会(第2回)
		15:00	防災委員会(第4回)
22日	18:00	防災訓練(すみれ棟)(火災想定)	

11月	2日	10:00	町内合同防災訓練
	12日	12:00	防災訓練(みどり園)(火災想定)
	13日		改築工事に伴う通行止めのお知らせ 通知(11/24)
		14:00	BCP検討会
	26日	16:05	防災訓練(第3児童棟)(火災想定)
			放送機材確認(入所施設全体)
		20:00	緊急連絡網訓練
随時		非常招集訓練	
12月	2日	10:15	防災訓練(みどり園)(不審者想定)(乳児部園庭)
	8日	14:00	防災委員会(第5回)
	16日	10:40	防災訓練(乳児部単独)(地震想定)
	17日	18:00	防災訓練(第2児童棟)(夜間・火災想定)
1月	13日		駐車場変更のお知らせ 配布
	28日	10:20	防災訓練(みどり園)(雪害想定・帰宅支援)
		12:00	防災訓練(教育棟)(火災想定)
	30日	10:15	防災訓練(乳児部単独)(火災想定)
随時		新第1児童棟 防火責任者プレート・避難経路図 整備	
2月	10日	14:00	防災委員会(第6回)
	26日	9:20	防災訓練(みどり園)(火災想定)
	25日	16:00	防災訓練(敷地内入所施設)(地震想定)
	26日	9:10	非常持出袋点検
3月	3日	14:00	BCP検討会
	10日	14:00	防災管理委員会(第3回) 防災委員会(第7回)
	11日	14:45	防災訓練(みどり園)(地震想定)
	25日	16:00	防災訓練(管理棟)(火災想定)

※自主防火対象物点検は、毎月2回、各ブロックごとに行い、報告書に記入している。

(2) 環境施設委員会 年間7回開催 メンバー19名

ア 環境整備（合同作業・植木剪定・園内清掃）

5/15・6/19・7/17・9/19・10/16・12/18

11/14（フィリップモリスジャパン）

イ プレハブ・倉庫

7月上旬にプレハブ掃除をし、8月上旬にプレハブ内の物品を確認した。

表倉庫がなくなり、表倉庫に置かれていた物がプレハブに置かれているため、

9月に新しくリストを作成した。

ウ 体育館

昨年度のように、煙草のポイ捨て等大きなトラブルなく使用できた。

中庭側の下窓ガラスが割れている為、年度初めに修繕する。

エ ゴミ置き場

ゴミ置き場の清掃は随時定期的に行う

オ 自転車管理

年間を通じて学園全体の新規、廃棄等の自転車使用状況の把握。

4月下旬、点検終了。防犯登録番号と修理リストを作成。

カ 粗大ごみ（不燃物）回収日・・・6/5 12/29

（可燃物）・・・7/20 12/29

乾電池・蛍光灯回収日・・・6/27 11/26 2月

家電ゴミ・・・2月

キ 網戸・雨樋

5月 各部署の網戸修繕開始。交換等は業者に依頼。7/2 修繕完了。

6月 各部署で一階部の雨樋清掃実施。

12/10 二階以上の雨樋清掃を業者に依頼、実施

ク 節電キャンペーン

7・8月に夏の節電キャンペーン実施。9月に節電キャンペーンの結果報告。

冷夏により使用料は減っているが、関心は薄れている。

ケ かんきょうニュース

節電キャンペーンの結果、取り組み内容を掲載。

コ 安全・安心な学園作りチーム

ヒヤリ・ハット事例を集約していく。

(3) ボランティア組織委員会 6回開催 全19名

ア 定期的なボランティア

- ・シオン会 年10回活動
- ・理容ボランティア 年2回活動
- ・ライオネスクラブ繕い奉仕 年2回

イ 園内でのボランティア活動

- 5月 みやげ工務店ハッピーくん こども祭り参加
- 12月 楽天クリスマスプレゼント
- 1月 みやげ工務店ハッピーくん お年玉

ウ 鳥取シネマ映画招待

「名探偵コナン」「ポケモン」「思い出のマーニー」「妖怪ウォッチ」「ドラえもん」
以上5本、チケット延べ枚数468枚

エ 行事・招待

- 4/27 鳥取ライオンズクラブお菓子作り
- 6/1 浩の会田植え
- 6/8 鳥取中央ロータリークラブ ガイナーレ鳥取試合観戦
- 6月 鳥取中央ライオンズ カブトムシ成虫寄付
- 8/3 浩の会BBQ
- 8/22 ジャパンディスプレイウエスト夏祭り
- 9/28 鳥取中央ロータリークラブ砂丘除草
- 10/5 浩の会稲刈り
- 12/7 鳥取いなばライオンズクラブもちつき大会
- 1/18 鳥取ライオンズクラブ卓球大会

(4) 広報委員会 (年間12回実施 委員数: 18名)

平成26年度広報委員会事業

ア 学園だよりの発行

6月に35号、12月に36号を発行した。

各号とも2ヶ月前から準備にかかり、予定月の第一週目に発行した。

イ ホームページのリニューアル

6月に法人ホームページのリニューアルをした。
希望館生活棟改築に合わせ、募金申込みをクレジット決済で出来るようにした。
インフォメーション、トピック、各種お礼など担当者を決めて記事を書いている。
施設の様子をブログ形式にし、各施設で生活の様子を書いている。
リレーブログとして各施設長が毎月リレー形式で記事を書いている。
今度も情報の更新はしていく必要がある。

ウ 要覧の更新

4月に改訂版を完成させたが内容に修正が必要な為、来年度早急に内容の検討、修正をして再改訂版を出す。

(5) 学習委員会（年間6回実施）

ア 英語教室 担当2名

(ア) 月1回月曜日17:00～18:00、4クラスのグループにわかれて実施した。

ボランティアの方2名による定期的な活動を行った。

イ 奉仕団 担当4名

(ア) 学習支援

学生の長期休暇を除く毎週火曜日18:30～19:30ホームでの活動。19:30～20:00ホームでの反省会。20:00～20:30全体反省会を実施。

(イ) 行事共催及び協力

学園子ども祭り及びクリスマス祝会への協力と「新・ミュージックフェスティバル」を共催した。

ウ 学習会 担当4名

(ア) 学習会

毎週木曜日、19:00～19:30小学生対象(小4～小6)、19:30～20:15中学生対象で行った。ボランティアの学生の人数4～5人に定着。

エ 学習ボランティア（個別対応）

5名の方が学習ボランティアとして、5名の児童に個別に学習指導を行った。

(6) 食育保健委員会(年7回実施 委員数:18名)

ア 園内菜園(担当:5名)

(ア) 各ホームがプランターで夏野菜を栽培し、収穫した。

(イ) 家庭舎裏の畑には、メロンとブルーベリーを栽培した。

イ キッチンチェック(担当：4名)

各ホーム年2回実施。全体的に綺麗にされていたが、調味料・ドレッシングの賞味期限切れのものが多かった。

ウ お菓子づくり(担当：8名)

幼児、(小)低学年、(小)高学年の3グループに分かれて年3回ずつ実施。

7月・9月・10月・1月に実施。

怪我もなく安全に取り組み、みんな楽しんで作れていたのが良かった。

エ 夕食づくり

各ホーム6回実施。

オ 一斉夕食づくり(年5回実施)

(ア) 6月12日に実施。メニュー：炊き込みごはん・鯖の味噌煮・冷や奴・オクラともやしのおひたし・すまし汁

(イ) 8月21日に実施。メニュー：冷やし担々麺・鶏天・野菜スティック・すいか

(ウ) 10月9日に実施。メニュー：きのこ入り炊き込みごはん・さんま塩焼き・ほうれん草のおかか和え・豚汁・フルーツ(梨)

(エ) 12月11日に実施。メニュー：ごはん・ちゃんこ鍋・手作りプリン

(オ) 2月12日に実施。メニュー：ごはん・しゃぶしゃぶ・フルーツ大福

5 行事関係

月 日	行 事 名	
4月8日(火)	(養)(情)	修立小学校との全体連絡会
4月27日(日)	(養)(情)(乳)	鳥取ライオンズお菓子作り
5月2日(金)	(情)	希望館分校・分教室春の遠足
5月15日(木)	(養)(情)	東中学校との連絡会
5月18日(日)	(養)(情)(乳)	学園こども祭り
5月25日(日)	(養)(情)(乳)	鳥取中央ライオンズクラブしいたけ植えカブトムシ入れ
6月1日(日)	(養)(情)(乳)	浩の会田植え
6月8日(日)	(養)(情)(乳)	鳥取中央ロータリークラブガイナレ鳥取試合観戦
7月21日(月)	(養)(情)(乳)	浩の会地曳き網
7月24日(木) ～25日(金)	(養)(情)(乳)	児相とのケース連絡会
7月30日(水) ～8月1日(金)	(養)(情)	県養協施設交流キャンプ(大山)
8月7日(木)	(情)	希望館デイキャンプ
	(養)(情)(乳)	夏季一斉帰宅
8月14日(木)	(養)(情)(乳)	OB会焼き肉パーティー
8月19日(火) ～20日(水)	(養)(情)	中養協児童球技大会(倉敷市)
9月5日(木) ～6日(金)	(養研)	ヤヌシュ・コルチャックの足跡を訪ねてツアー(ポーランド)
10月5日(日)	(養)(情)(乳)	浩の会稲刈り
10月15日(火) ～16日(水)	(養)(情)(乳)	中養協職員バレー大会(鳥取市)
10月23日(木) ～24日(金)	(養)(情)(乳)	中養協職員野球大会(出雲市)
11月16日(日)	(養)(情)(乳)	「新・ミュージックフェスティバル」
12月7日(日)	(養)(情)(乳)	鳥取いなばライオンズ餅つき
12月21日(日)	(養)(情)(乳)	学園クリスマス祝会(主：養護)
12月22日(月)	(養)(情)(乳)	児相との進路ケース連絡会
12月24日(水)	(養)(情)(乳)	クリスマスホームパーティー
	(養)(情)(乳)	冬季一斉帰宅
1月2日(金)	(養)(情)(乳)	OB新年会
1月6日(火)	(法人)	合同新年会
1月18日(日)	(養)(情)(乳)	鳥取ライオンズ卓球大会
3月9日(月)	(情)	希望館分校・分教室卒業生を送る会
3月6日(金)	(情)(養)	卒業・卒園を祝う会

(2) 鳥取みどり園

行 事 名				
月	日	園	日	保護者会
4	1 3 4 21 25	進級式 入園式 お花見会 蟻虫・尿検査 親子遠足 (こどもの国)	16 25	役員会 保護者会総会
5	7~31 22	家庭訪問 内科健診		
6	12 20 21 24 27	ちまき作り歯科検診 うさ魏組茶話会 参観日 (3歳以上児) チャイルドシート着用率調べ ひよこ組・りす組茶話会 巡回指導	8 21	バザー クラス別懇談会
7	7 24	七夕まつり 卒園生の集い		
8	1・26	産業体育館プール利用 (年長児)	2	納涼祭
9	2 9 15 28	出前かっこ館 劇団「杉の子」人形劇鑑賞 修立地区敬老会に年長児銭太鼓出演 運動会 (保護者会と共に)		
10	1 10 12 15 17 25・26	巡回指導 とりっこ事業 (3歳児ポニー牧場) 鳥取市児童文化祭出演 とりっこ事業 (4歳児安蔵で農業体験) とりっこ事業 (5歳児ひょうたくんで自然体験) 修立地区文化祭に絵画出品・年長児体操出演	30	交通安全教室
11	13 20 21 25 27	内科健診 感謝祭 感謝訪問 チャイルドシート着用率調べ 年長児歯の健康講座 (6歳臼歯について)		
12	20 25	クリスマス祝会 餅つき大会		
1	15	伝承遊びのつどい		
2	9~13 21 26~28	個別懇談会 参観・給食試食会 作品展	20 21	交通安全教室 講演会 (県教育センター牧野厚志氏)
3	10 17 28	新制度・3歳以上児クラス編成・ 2歳児進級について説明会 ガイナマン体操収録 (日本海ケーブルネット) 第64回卒園式		

* 「避難訓練」「おたのしみ会」「交通安全指導」「発育測定」「クリーンデー」
「安全指導」は毎月1回

* 読み聞かせ「おはなしの会」は毎月2回 (2歳児以上)

6 実習・研修受入

(1) 養護・情短・乳児院の実習及び研修受入状況

人数	学校名・施設名等	学年	打合日	実習期間		配置
3名	里親基礎・認定前 研修実習	—	—	5月31日	1日	(養):3名
6名	鳥取短期大学	2年	5月14日	6月2日～6月11日	9日	(養):2名 (情):2名 (乳):2名
1名	弁護士	—	—	7月10日～7月11日	2日	(養):1名
3名	司法修習生研修	—	—	7月10日～7月11日	2日	(養):2名 (情):1名
6名	鳥取短期大学	2年	7月9日	8月18日～8月27日	9日	(養):2名 (情):2名 (乳):2名
1名	四国学院大学	3年	7月13日	8月18日～8月28日	10日	(養):1名
1名	鳥取県土整備部河川課	—	—	8月26日～8月28日	3日	(乳):1名
2名	乳児院 豊島神愛館	—	—	9月1日～9月4日	4日	(乳):2名
4名	鳥取大学医学部大学院	院生	8月27日	9月2日～9月5日	4日	(情):4名
3名	児童養護施設 一陽	—	—	9月11日～9月12日	2日	(養):2名 (情):1名
4名	鳥取大学医学部大学院	院生	8月27日	9月16日～9月19日	4日	(情):4名
4名	鳥取県立保育専門学院	2年	10月10日	10月20日～10月31日	11日	(養):3名 (乳):1名
6名	鳥取短期大学	2年	10月8日	10月27日～11月5日	9日	(養):2名 (情):2名 (乳):2名
1名	兵庫大学短期大学部	3年	11月25日	11月25日～12月5日	10日	(乳):1名
1名	鳥取県	—	—	12月3日～12月5日	3日	(乳):1名
1名	児童養護施設 四恩学園	—	—	2月16日～2月18日	3日	(養):1名
4名	鳥取大学地域学部	3年	2月5日	2月16日～2月26日	10日	(養):2名 (情):1名 (乳):1名
1名	兵庫大学短期大学部	3年	2月12日	3月2日～3月12日	10日	(養):1名